



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	政治の経済学とネットワーク : 情報, 帰属意識, 外部経済
Author(s)	黒坂, 健吾
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 4, 81-82
Issue Date	2015-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58402
Type	departmental bulletin paper
File Information	19081Kurosaka.pdf



＜第10回研究会＞

政治の経済学とネットワーク ー情報，帰属意識，外部経済ー

黒阪 健吾

1. はじめに

鉄道や幹線道路など，公共的に供給されるネットワークの形状は，政治的な決定プロセスによってどの程度説明されるのだろうか？たとえば鉄道建設に関しては，地元選出の議員が極めて戦略的な誘致を行うことが知られており，この問いは自明なように思われる¹⁾。しかしながら，ネットワーク外部性を持つ公共財に関しては，決定プロセスに関わるプレイヤーの選好が通常の公共財と異なるため，その答えは必ずしも自明ではない。

2. 分配政治の難しさ

公共財の供給に関する政治的決定プロセスの影響は，政治の経済学（Political Economics）においては，分配政治（Distributive Politics）の枠組みによって分析されてきた。分配政治の枠組みでは，ある地域に便益を与える地方公共財の供給を，その地域を含む複数の地域から選ばれた代表による投票により決定する状況を分析する。ある地域への公共財の供給はその地域に便益をもたらす一方で，他地域に費用負担を強いるため支持を得ることが難しい。しかしながら，これまでいくつかの政治的決定プロセスのもとで，公共財が供給されることが明らかになっている²⁾。

3. ネットワークと分配政治

本研究は分配政治の枠組みを，地域と地域を接



続する「リンク」の公共的な供給に応用することで，ネットワークを内生的に形成するモデルを提示することを目的としている。これまでネットワークを内生的に形成するモデルについては，各地域に住んでいるプレイヤーが自発的にリンクを供給する状況を扱っていた（Galeotti & Goyal, 2010）。しかしながら，現実のネットワーク形成においては，鉄道や幹線道路などの例にみるように，リンクが公共的に供給される状況が多く，したがって本研究のモデルの応用範囲は広範囲に及ぶと考えられる。

4. 本研究の枠組み

本研究の基本的な枠組みは以下の通りである。第1に，各地域に複数の有権者が立地しており，有権者は自分の住む地域が既存のネットワークと接続されたときに便益を得ることができる状況を考える。ここでは簡単化のため，有権者は有限数のリンクを通じて，特定の地域と接続されたときにのみ便益を得ると仮定する。直感的な例としては，北海道新幹線を青森から函館に延伸することで，函館に住む有権者が便益を得ることができる状況であると解釈することができる。

1) たとえば齊藤（2010）では，自民党長期政権下における党支持率と交通インフラ整備の関係を指摘している。また小牟田（2012）では，鉄道行政における政治家の介入について多数の例を紹介している。

2) 分配政治に関する理論研究は Gehlbach（2013）のサーベイに詳しい。

第2に、各リンクの供給にかかる費用は、有権者からの一括税により賄う状況を考える。ここでは簡単化のため、有権者による均等負担を仮定する。ここまでの設定から、ある地域と地域の間に供給するリンクをめぐる、それにより既存のネットワークに接続されることで便益を得る地域と、それにより影響を受けない地域に費用負担のみを強いるという、地域間の利害対立が発生することが分かる。直感的な例としては、北海道新幹線を札幌まで延長するという計画について、札幌延伸により新幹線ネットワークへのアクセスを得る札幌市民と、すでにネットワークへのアクセスを得ている函館市民との間で、計画に対する利害が対立する状況であると解釈することができる。

第3に、政治的な決定プロセスについて、まずネットワークの形状に関する案が提示されたのち、ネットワークを形成するリンクを部分的に投票に諮る状況を考える。直感的には、「全国新幹線整備法」によりおおまかなルートを策定したうえで、北陸、九州、北海道など個別の路線を承認するか否かについて、それぞれを投票に諮る状況であると解釈することができる。ここで重要なのは、ネットワークのどの部分から投票に諮るのかに応じて、異なる多段階投票ゲームとして表現できる点である。これらの多段階投票ゲームの部分ゲーム完全均衡を求めることで、投票に諮る順番に応じて実現するネットワークの形状と、実現することができないネットワークの形状について特定することが可能である。

5. これまでに得られた結論

本研究ではこれまでに、ある種の形状を持つネットワークについては、投票に諮る順番を指定することで、部分ゲーム完全均衡として実現可能であることを示している。具体的には、「その部分が供給されない場合に過半数の有権者の利得が低下してしまう」部分を最後に投票に諮ることで、提案したネットワーク全体が欠けることなく、多段階投票の部分ゲーム完全均衡として達成されることを示すことが可能である。反対に、投票に諮る順番が適切ではない場合には、提案したネット

ワークの一部が否決されたり、あるいは全体が否決されたりする場合があります。

6. 今後の課題

本研究では政治経済学における分配政治の枠組みを用いて、ネットワークの公共的な供給を分析した結果、その供給には政治的な決定プロセスが大きな影響を与えていることが明らかになった。この結果は、ネットワークを内生的に形成するモデルを検討する上で、新たなアプローチを与えるものである。今後はリンクの外部性について「有権者は特定の地域と接続されたときにのみ便益を得る」という強い仮定を、より一般的なものに置き換えた場合にも結論が保持されるのか否かについて検討する予定である。

参考文献

- 小牟田 哲彦 (2012)『鉄道と国家：「我田引鉄」の近現代史』講談社現代新書。
- 斉藤 淳 (2010)「自民党長期政権の政治経済学：利益誘導政治の自己矛盾」勁草書房。
- Kurosaka, K., (2013), "Distributive Politics in Public Goods Network: Implicit Logrolling by Agenda Setting," Available at SSRN: <http://ssrn.com/abstract=2367155>.
- Galeotti, A., and Goyal, S., (2010), "The Law of the Few," *The American Economic Review*, 100 (4): 1468-1492.
- Gehlbach, S., (2013), *Formal Models of Domestic Politics*, Cambridge University Press.